

## 発着能力強化し、首都圏の“空の玄関”がリスタート

さまざまな苦難を乗り越えて、このたびD滑走路の舗装工事も完成を迎えました。平成22年5月17日より飛行場検査(フライトチェック)が開始され、同年10月21日にはD滑走路の正式な運用が開始されました。羽田空港は、発着能力が大幅に強化された首都圏の“空の玄関”として生まれ変わり、利用者の利便性はさらに向上するはずです。

私たち大成ロテックは、道路だけではなく、さまざまな舗装や道づくりを手掛け、社会基盤の構築に貢献しています。



### ■ 工事概要

**工事名:** 東京国際空港D滑走路建設外工事  
**工事場所:** 東京都大田区羽田空港東京国際空港内  
**発注者:** 国土交通省 関東地方整備局  
**全体工期:** 平成17年3月29日～平成22年8月30日(事業全体)  
**当該工事:** 平成21年8月17日～平成22年8月30日(舗装工事)  
**元請負者:** 鹿島・あおみ・大林・五洋・清水・新日鉄エンジニア・JFEエンジニア・大成・東亜・東洋・西松・前田・三菱重工・みらい・若築興工種建設工事共同企業体  
**舗装JV:** 鹿島道路・大成ロテック・日本道路・大林道路舗装工事共同企業体  
**工事内容:** [滑走路新設]15万m<sup>2</sup> / [誘導路ほか新設]50万m<sup>2</sup> 延べ面積242万m<sup>2</sup>  
 [場周ほか新設]10万m<sup>2</sup> / [着陸帯表面処理]25万m<sup>2</sup> / [植生工]1式  
**主要材料:** 砕石(C40ほか)29万m<sup>3</sup> / アスファルト混合物43万トン / 乳剤72万%

## JVは参画企業間のチームワークが大切

空港敷地内のJV仮設事務所に常駐し、主にプラント全体の管理事務を担当しています。具体的には、製造・設置撤去の原価管理、工区毎の出荷状況管理や、1日最大延べ1,400台におよぶ資材受入・合材出荷ダンプの管理、現場スタッフの安全・健康管理など多岐におよびます。今回は、JVという特殊性から、管理書式の統一などで苦慮しました。しかし、各社間のコミュニケーションを密にするこ

とで、当プロジェクトオリジナルのスタイルが構築できたと思います。

また、安全・健康管理面には特に気を使い、冬場のインフルエンザ対策と夏場の熱中症対策を徹底しました。

相沢 直人  
課長代理(管理担当)



### Voice

## コーポレート・ガバナンスと内部統制

### ■ コーポレート・ガバナンスに対する基本的な考え方

大成グループのコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、「経営の効率性ならびに透明性・健全性を高め、コーポレート・ガバナンス体制を充実させることで株主・顧客をはじめとした会社関係者の信頼を深めていく」ということです。そのため、グループ各社におけるコーポレート・ガバナンス体制のなお一層の整備を図り、グループ全般にわたる企業価値の向上を目指しています。

### ■ 内部統制

大成ロテックは、取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)に関して取締役会において決議し、適正で効率的な体制の実現を目指しています。その具体的な施策および整備状況は下記の通りです。

- コンプライアンス体制**  
 「大成ロテック企業行動規範」をはじめとするコンプライアンス体制に係る諸規程に加え、法令上疑義のある行為等について使用人が直接情報提供を行う仕組みを定めた「内部通報規程」を整備しています。
- 情報管理体制**  
 「社内用文書管理規程」等の文書・情報関連の社内規程を整備しています。
- リスク管理体制**  
 損失の危険の管理に関する規程である「リスクマネジメント基本規程」「リスク管理規程」「事業継続計画(BCP)」に加え、近年社会問題化している情報漏洩対策のため「情報セキュリティ管理規程」を整備しています。
- 企業集団における業務の適正を確保するための体制**  
 大成ロテックおよび子会社からなる企業集団における業務の適正の確保のため、「大成ロテックグループ会社運営要綱」を整備しています。